

吉 原 遺 跡

— 県道柏・御坊線改良工事に伴う弥生遺跡発掘調査概報 —

1988. 3

財団法人和歌山県文化財センター

序 文

紀伊水道に面した日高郡美浜町は、紀中地方の中心地御坊市に隣接し、「日ノ御崎」・「煙樹ヶ浜」などの自然環境にめぐまれ、また、気候風土の大変すぐれた地であります。

このたび、この美浜町におきまして県道柏御坊線改良工事が計画され、当文化財センターが工事に先立ち吉原遺跡の発掘調査を実施いたしました。

吉原遺跡は、戦前に松原小学校から弥生土器が出土したり、水道工事に際し古墳時代の遺物が発見されるなど、非常に注目されてきた遺跡であります。しかし、その内容につきましては、本格的な調査が行われることがなかったため、不明な点も多々あるのが現状です。

今回の調査では、弥生時代中期の墳墓を中心として、古墳時代から中世にわたる遺構・遺物が発見され、貴重な資料を得ることができました。

ここに調査の成果をまとめ概要報告書を刊行する次第であります。本書が当地方の歴史を知る上で一つの資料となれば幸甚です。

最後になりましたが、調査にあたり種々御協力をいただいた関係各位、並びに地元の皆様に深く感謝の意を表し厚くお礼申し上げます。

昭和63年3月

財団法人和歌山県文化財センター

理事長 仮 谷 志 良

例 言

1. 本書は県道柏・御坊線改良工事に伴う吉原遺跡埋蔵文化財第1次発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は和歌山県の委託を受け、財団法人和歌山県文化財センターが実施した。
3. 調査は和歌山県教育委員会の指導を受け、調査委員羯磨正信・巽 三郎・都出比呂志・藤澤一夫（和歌山県文化財保護審議会委員）各氏の指導、助言を得た。
4. 調査の組織は以下の通りである。

和歌山県教育委員会

財団法人和歌山県文化財センター

文化財課長

梅村善行

事務局長

梅村善行

文化財課主幹

福田資弘

次長

管原正明

文化技術班々長

高橋 彬

埋蔵文化財課長

辻林 浩

文化技術班専門員

吉田宣夫

埋蔵文化財課主査

永光 寛（担当者）

文化技術班専門員

藤井保夫

管理課長

松田正昭

5. 調査にあたっては、和歌山県御坊土木事務所、美浜町役場、同教育委員会より御配慮を受けた。
6. 本概報は、永光が編集、執筆した。
7. 本書で使用了遺構の記号は、土墳（墓）—SK・溝状遺構—SD・ピット—SPである。
8. 本文・実測図・写真図版の遺物番号はすべてに共通する。
9. 遺構番号は、調査時のものを使用し、各調査区ごとに遺構番号を付した。

I 位置と環境

本遺跡は、紀伊水道に臨む海岸砂丘（標高8～10m）「煙樹ヶ浜」に位置する。本砂丘上には、比較的遺跡が少なく、概要の知られているものは、本遺跡に隣接した松原経塚（平安時代）のみである。しかし、砂丘の後背湿地を挟んだ日高川の自然堤防上には、縄文時代、弥生時代前・中・後期の遺跡が知られ、同川を中心として古墳も多く確認されている。

II 調査

調査面積は約1400㎡である。調査にあたっては、便宜上地形にそくして調査区の東端を第1区とし、順次西に向い最終区を第6区とした。

調査区の土層は、東西に長い地域なので多少の変化はあるが、基本的には上位から①表土層②淡茶褐色系砂③淡黄褐色系砂（地点により淡赤色の土を混入した砂）④よく締った暗青灰色砂（砂粒の細・粗は地点により異なる）である。

①遺構

検出した遺構は、総数89基を数える。その大半が土坑状（平面プラン楕円形を主体とする）を呈し、その何基かは弥生土器の完形品（体部に穿孔を施すものもある）が埋置されており、墓址としての性格を考えることができる。その他に遺物の出土しない土坑も数多く検出されたが、新しい時期の掘り込みでないものは、土壌墓として報告したい。溝状遺構は、砂丘上に立地している以上は、給排水の機能は考えられず、墓域の設定あるいは方形周溝墓の周溝部の一端としての可能性が考えられる。以下、主な遺構について説明を加える。

第1区（調査面積約45㎡）

町道に沿った大和紡績和歌山工場の南に位置する。道路工事の際に路面に接したところは攪乱をうけている。検出した遺構は土壌墓4墓である。

SK-1 遺構検出面で長軸1.65m、短軸0.90m、深さ0.47mである。平面楕円形状を呈し、底面は長軸に沿って両端がやや深く中央部が盛上る。弥生時代中期の直口壺（遺物番号3、以下数字のみを記す）の破片が細片で出土。

SK-2 全容不詳。長軸1.00m以上、短軸0.75m、深さ0.28m。SK-1と同一個体の弥生土器片が出土。

SK-3 重複したSK-3・4・5の中で最も新しい。長軸1.70m、短軸1.20m以上、深さ0.39m。弥生土器片が混入する。SK-1出土の土器片と同一個体。

SK-4 全容不詳。SK-3より古い。長軸1.00m以上、短軸0.69m、深さ0.35m。底面は、通常の舟底形ではなく中央部が一段低くなる。

第2区（調査面積約5㎡）

第1区の西側、松ノ実公園に北接する。2穴のテストピットを設定したが、旧公園地にあたり

分布図

- 1 吉原遺跡
- 2 堂の前西沼遺跡
- 3 田井遺跡
- 4 西川遺跡
- 5 猪野々遺跡
- 6 下富安遺跡
- 7 小松原II遺跡
- 8 湯川神社境内遺跡
- 9 龜山銅鐸出土地
- 10 朝日谷遺跡
- 11 龜山遺跡
- 12 蛭田坪遺跡
- 13 堅田遺跡
- 14 正文字山遺跡
- 15 箱谷遺跡
- 16 鶴巻銅鐸出土地
- 17 土生B遺跡
- 18 法徳寺遺跡
- 19 小篠遺跡



樹木の植付穴等が、暗青灰色砂（ベース）に達しており、遺構・遺物は検出されない。

第3区（調査面積約350㎡）

大和紡績和歌山工場の西隣。ほぼ南北に長い調査区である。土壌墓14基、溝状遺構6条、ピット5穴を検出した。

SK-1 長楕円形を呈す。長軸1.93m、短軸0.93m、深さ0.19m。疑似流水文をもつ弥生土器の破片（15）が出土。

SK-2 昭和期の攪乱により全容不詳。長軸1.70m、短軸1.10m以上、深さ0.26m。

SK-4 長軸1.66m、短軸0.99m、深さ0.42m。

SK-5 遺構のほぼ1/2は調査区外に延びるため全容不詳。長軸1.10m以上、短軸1.30m、深さ0.33m。弥生土器（5・6）2点が横位の状態で出土。

SK-6 長軸1.68m、短軸1.07m、深さ0.08m。

SK-7 長軸1.07m以上、短軸1.04m、深さ0.08m。

SK-8 SK14より古くSK7よりも新しい。長軸0.86m以上、短軸0.80m、深さ0.19m。

SK-9 SP3より古い。長軸0.85m、短軸0.42m、深さ0.07m。

SK-10 長軸1.28m、短軸1.0m、深さ0.1m。

SK-11 平面円形状を呈す。ほぼ径1.3m、深さ0.20m。

SK-12 SK13と重複関係にあり、本遺構が古い。全容不詳。長軸1.64m以上、短軸0.68m以上、深さ0.36m。

SK-13 SK12より新しいが、調査区外に延びるため全容不詳。長軸0.6m以上、短軸0.55m以上、深さ0.5m。弥生土器（8）出土。土壌の壁面に沿って埋置されていた。

SD-1 全長2.04m以上、幅2.9m以上、深さ0.66m。溝状遺構端部か。弥生土器細片出土。

SD-2 全長4.0m以上、幅0.52～1.03m、深さ0.07～0.29m。黒色土器片が出土。

第4区（調査面積約600㎡）

旧保安林（松林）である。昭和期にかかる攪乱が著しい。土壌墓25基、溝状遺構2条等を検出。

SK-1 全容不詳。長軸0.76m以上、短軸0.8m、深さ0.36m。

SK-2 遺構の底面にピットを検出したが、本遺構に先行するものである。長軸2.12m以上、短軸1.49m以上、深さ0.1m。

SK-5 長軸2.16m、短軸1.4m、深さ0.43m。全長0.76mの直刀（14）が出土。土壌の底面より浮いた状態ではあるが、長軸に沿った北壁付近に置れていた。

SK-6 長軸1.66m、短軸1.36m、深さ0.18m。

SK-7 長軸1.28m、短軸1.50m、深さ0.37m。

SK-9 長軸2.03m以上、短軸0.65m以上、深さ0.27m。

SK-10 長軸1.05m、短軸0.85m、深さ0.27m。刀子の断片が出土。

SK-13 大形の土壇である。長軸3.76m、短軸2.26m、深さ0.44m。弥生土器（7）が、細片となり土壇の全面から出土している。

SK-16 長軸2.34m、短軸1.30m、深さ0.24m。

SK-18 SD2と重複関係をもち、本遺構の方が古い。長軸1.66m、短軸1.30m、深さ0.18m。中央部に弥生土器が横位で出土。

SK-19 長軸1.93m、短軸1.50m、深さ0.32m。底面中央部に凹みをもつ。

SK-21 長軸1.42m、短軸1.02m、深さ0.45m。一部にテラス状の面を形成する。弥生土器(10)が出土。

SD-1 全長6.71m以上、幅1.56m、深さ0.27mで、両端は完結していない。

SD-2 平面L字状を呈する。長辺9.14m、短辺0.90m、幅0.7m前後、深さ0.15m。

その他、SK5に東接する地点より土師器（11）が出土したが、遺構は検出できなかった。

第5区（調査面積約240㎡）

かつては公園であったと聞かすが、現状はゴミ捨て場になっており、同時に撓乱坑も多く見られる。土壇墓7基を検出した。

SK-1 長軸1.93m、短軸1.56m、深さ0.44m。土壇の長軸端（西）に倒れた状態で弥生土器（2）が出土。

SK-9 長軸2.41m、短軸1.72m、深さ0.6m。他の土壇と比べるとやや規模が大きい。底面中央部に凹みが認められる。

第6区（調査面積約160㎡）

松原幼稚園の南側で、旧幼稚園の敷地内である。遊具施設等の基礎掘方のためかなりの撓乱坑がみられる。土壇墓12基、ピット5穴その他の遺構を検出した。

SK-1 平面円形状を呈し、礫の混入が顕著である。長軸1.23m、短軸1.06m、深さ0.4m。

SK-2 土壇の南半が昭和期の削平をうける。長軸1.42m、短軸1.28m、深さ0.20m。土壇の北端で弥生土器（4）が出土。

SK-3 幅広の楕円形を呈す。長軸2.03m、短軸1.76m、深さ0.51m。

SK-5 土壇内にピットをもつ。長軸1.1m、短軸0.79m、深さ0.21m。

SK-6 昭和期の撓乱坑のため全容不詳。長軸1.58m、短軸1.23m、深さ0.21m。鉋（13）と鍛造鉄刃（12）とそれに付着した鉄器出土。

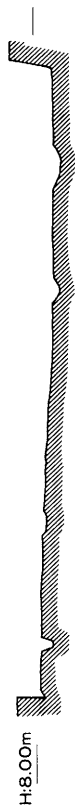
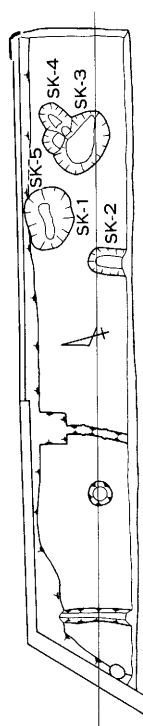
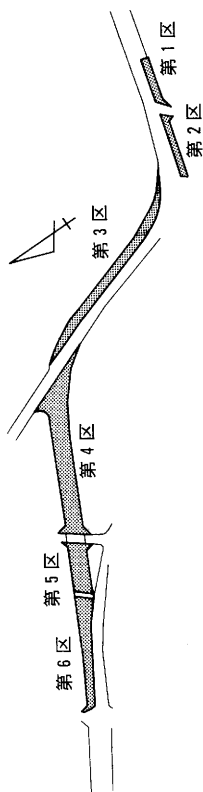
②遺物

今回の調査で出土した遺物は、弥生時代中期中葉を中心とし、他に古墳時代・平安時代・鎌倉時代の遺物が少量出土している。

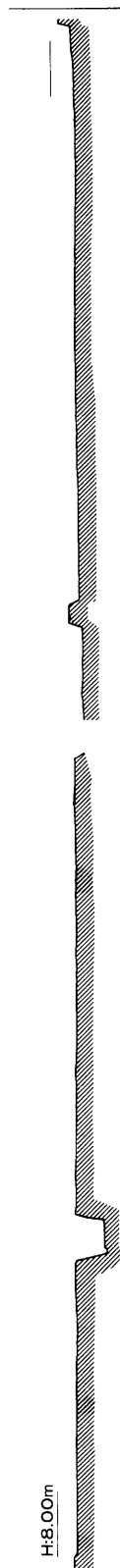
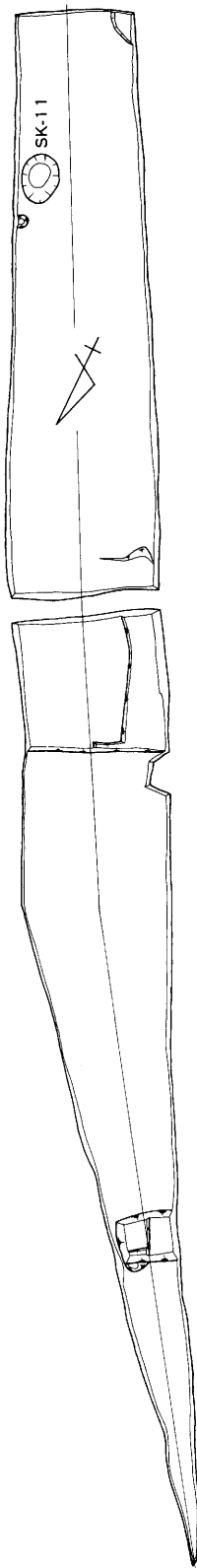
以下、主な遺物について時代を追って説明を加えることにする。

- 1 第1区第3層出土。広口長頸壺の口縁部である。口縁部下端に細い粘土帯を付加し、棒状押捺痕文を施す。そののち、口縁端面に一条の沈線を巡らせ、櫛状具による刺突文を施す。口縁部以下は、算盤玉状に張り出す体部に緩やかに外傾する長い頸部が続き、櫛描直線文が体部上半に5条以上、頸部に11条以上施される。
- 2 第5区SK-1出土。体部径は口縁部径より少し張り出し、口頸部は丸みをもって外反する。外面頸部以下は縦方向の細かいハケ調整ののち、底部から頸部にかけて丁寧なヘラケズリが施され上半ではやや左方向に傾く紀伊型甕である。底部は幅の広い弱い板ナデが施される。内面は左斜め上りのナデ調整ないしは板状具によるナデ調整が施される。
- 3 第1区SK-1出土。直口壺の体部下半。色調は他と異なり淡黄灰白色を呈す。
- 4 第6区SK-2出土。無文の直口壺。体部全体を4段階に分けて幅の広い雑なヘラミガキを、施す。頸部から底部にかけて、全体の約 $\frac{1}{3}$ に薄い煤の付着が認められる。体部下半に焼成後の穿孔がある。頸部内面は他の土器と同様にしぼり目が顕著に残り雑な整形である。
- 5 第3区SK-5出土。やや張り出す体部に外傾する頸部が続き、斜下外反口縁がつづく。頸部下位に付加された3条の突帯はシャープさがあり、そののち櫛描直線文4条と波状文3条が施される。内面は左斜め上りのハケ状具による調整が施される。
- 6 第3区SK-5出土。5と同一遺構内出土。頸部下位に小さな2条の突帯を付加された直口壺。体部下位に焼成後の穿孔がある。4同様煤が付着する。
- 7 第4区SK-13出土。基本的に4と同一形態をもつ直口壺。4に比して口縁部の横方向のナデが強く、底部の径が非常に小さい。体部下半に黒斑あり。
- 8 第3区SK-13出土。遺存状態良好であるが、粗いハケ調整が目立つ。体部に雑な櫛描直線文と波状文が交互に施され、口縁端面に櫛状具による刺突文が施される。
- 9 第4区SK-18出土。雑な櫛描直線文が8条以上施され、直口壺と考えられる。
- 10 第4区SK-21出土。頸部と体部の境が不明瞭な直口壺で、口縁端部に刻目が施される。
- 11 第4区。底部を篋で削り取り丸底を呈し、全体に粗いハケ調整が目立つ。
- 12 第6区SK-6出土。基部幅10.4cm、刃部幅10.8cm、長さ6cmを測る両刃の鍛造鉄刃である。背面に小刀状の鉄器が付着する。
- 13 第6区SK-6出土。全長49.6cm、刃幅1.2cmを測る大型の鉋である。
- 14 第4区SK-5出土。全長76cm、身部62.4cm、基部13.6cmを測る直刀である。

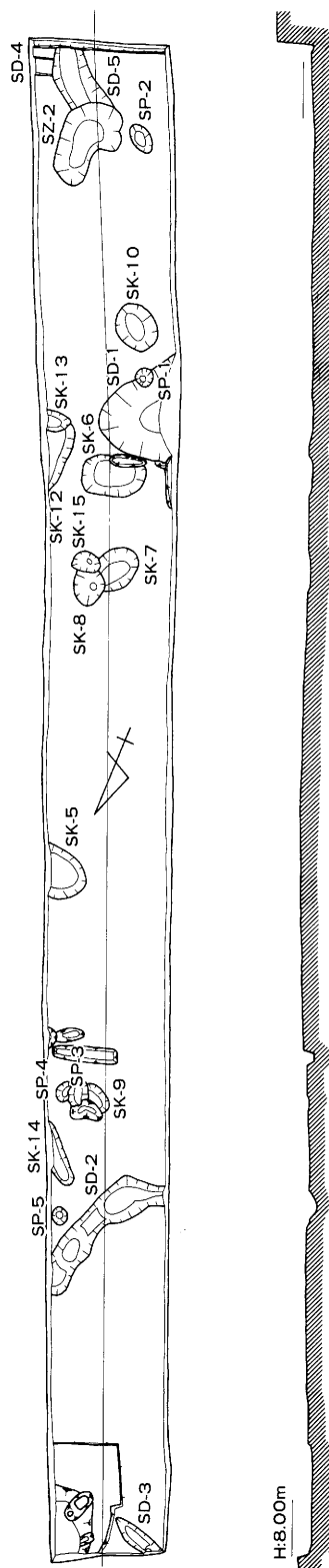
各々の遺物の時期は、1・2は第II様式の新しい時期に、3～6は第三様式古段階に、11～14は古墳時代中葉に比定できる。出土した弥生土器には在地のものと、図示した土器のように結晶片岩を含み、紀北地方からの搬入品と考えられるものの両者がある。

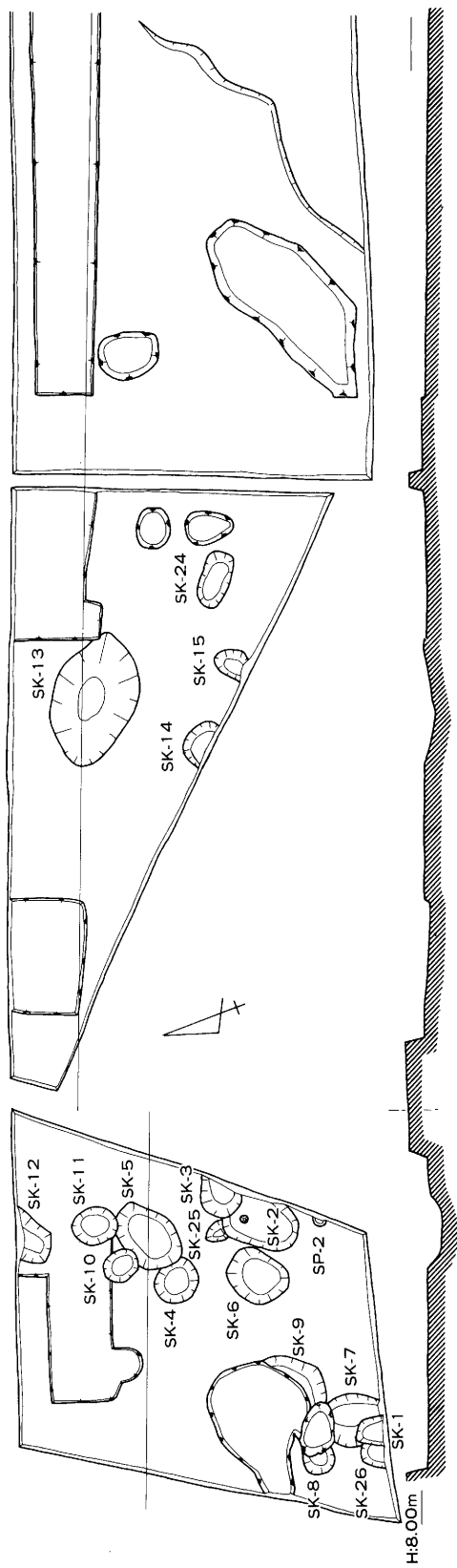


第2区遺構全体図

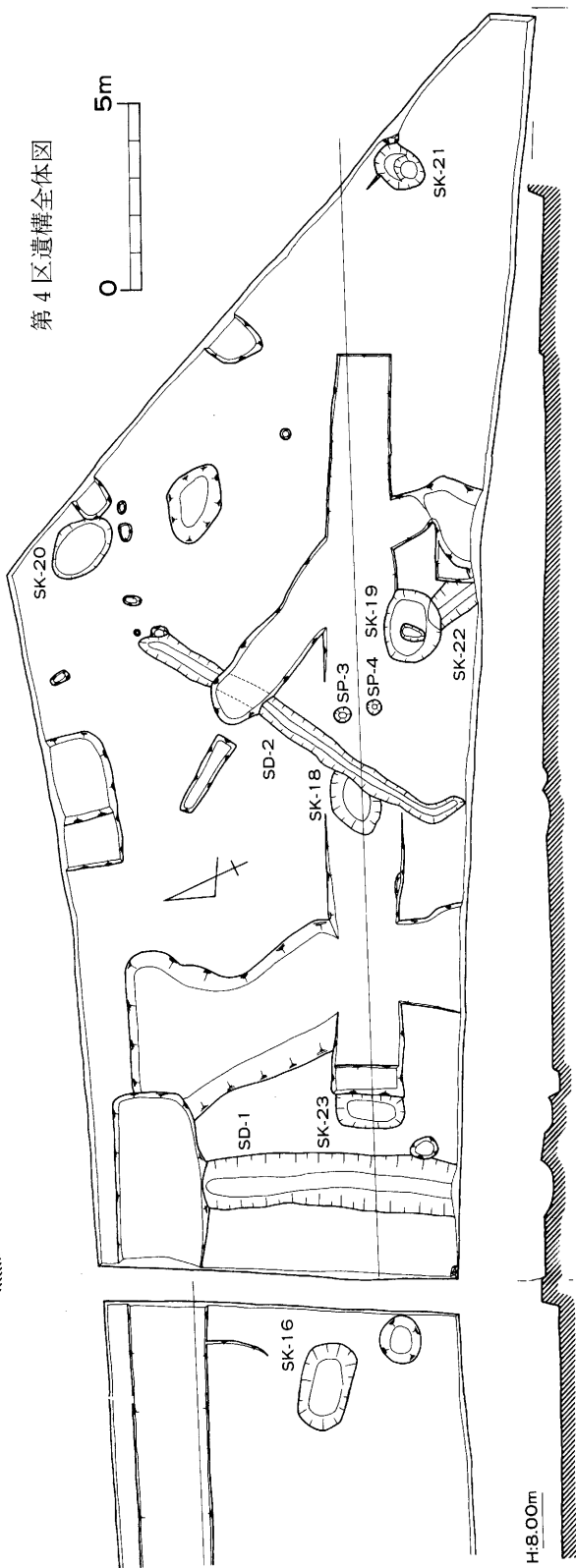


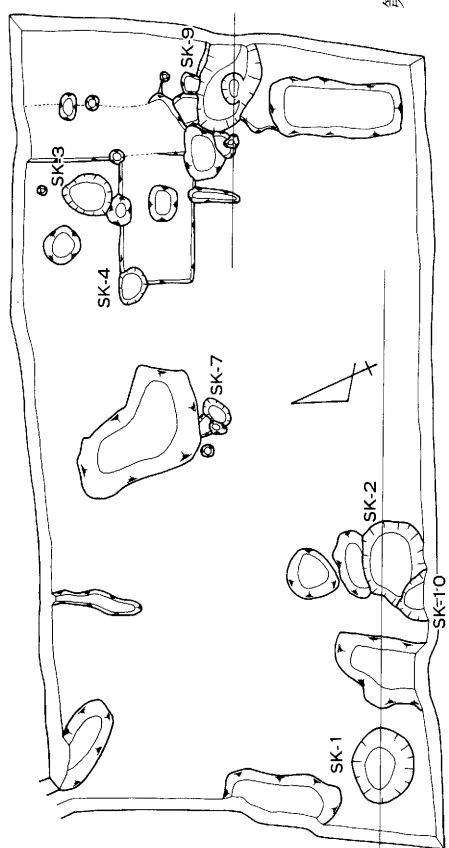
第3区遺構全体図



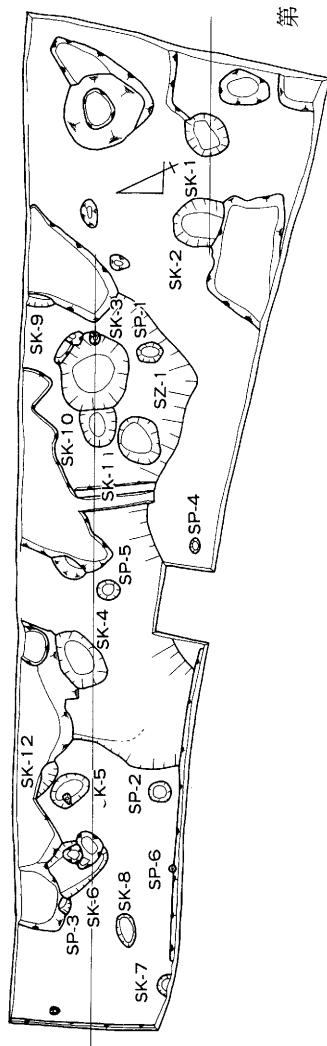
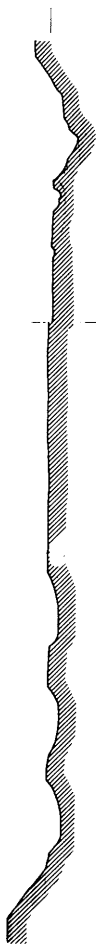


第4区遺構全体図



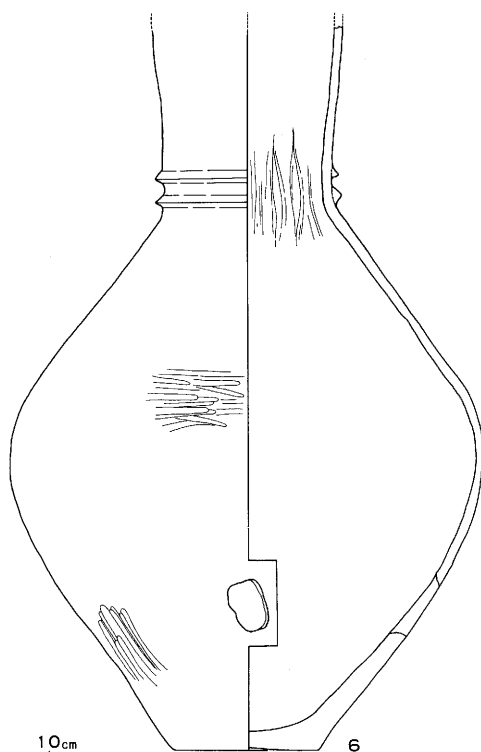
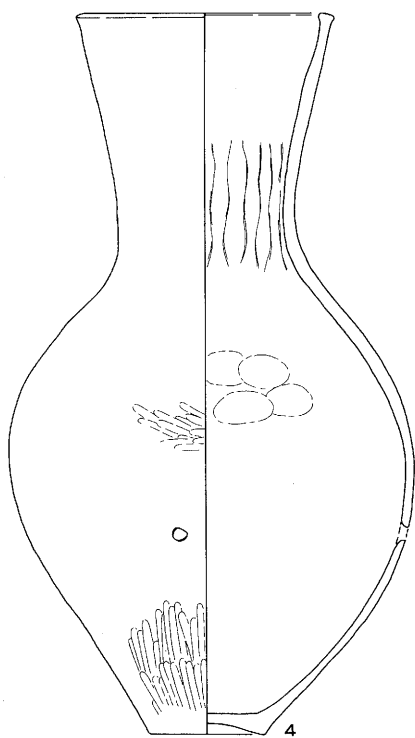
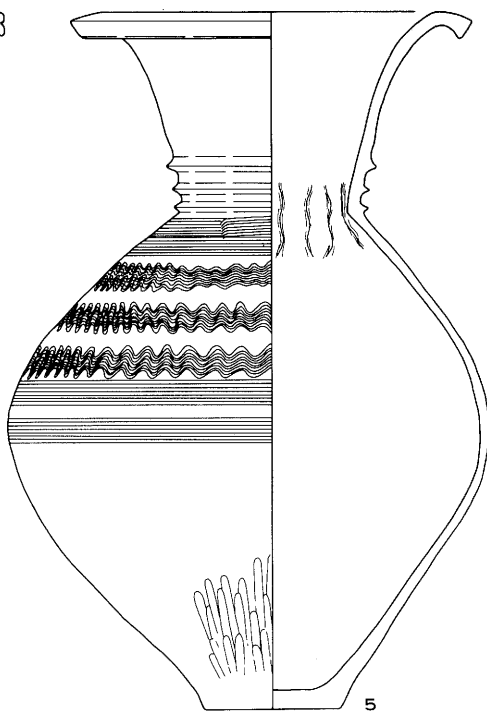
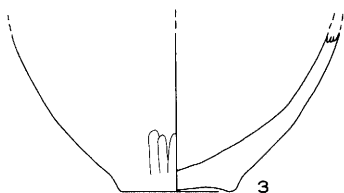
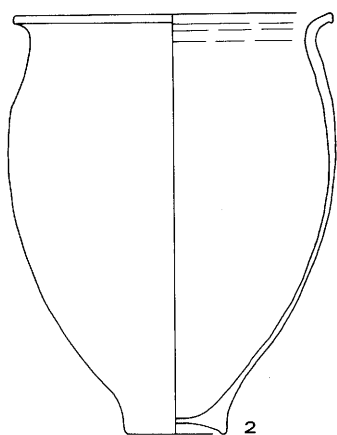


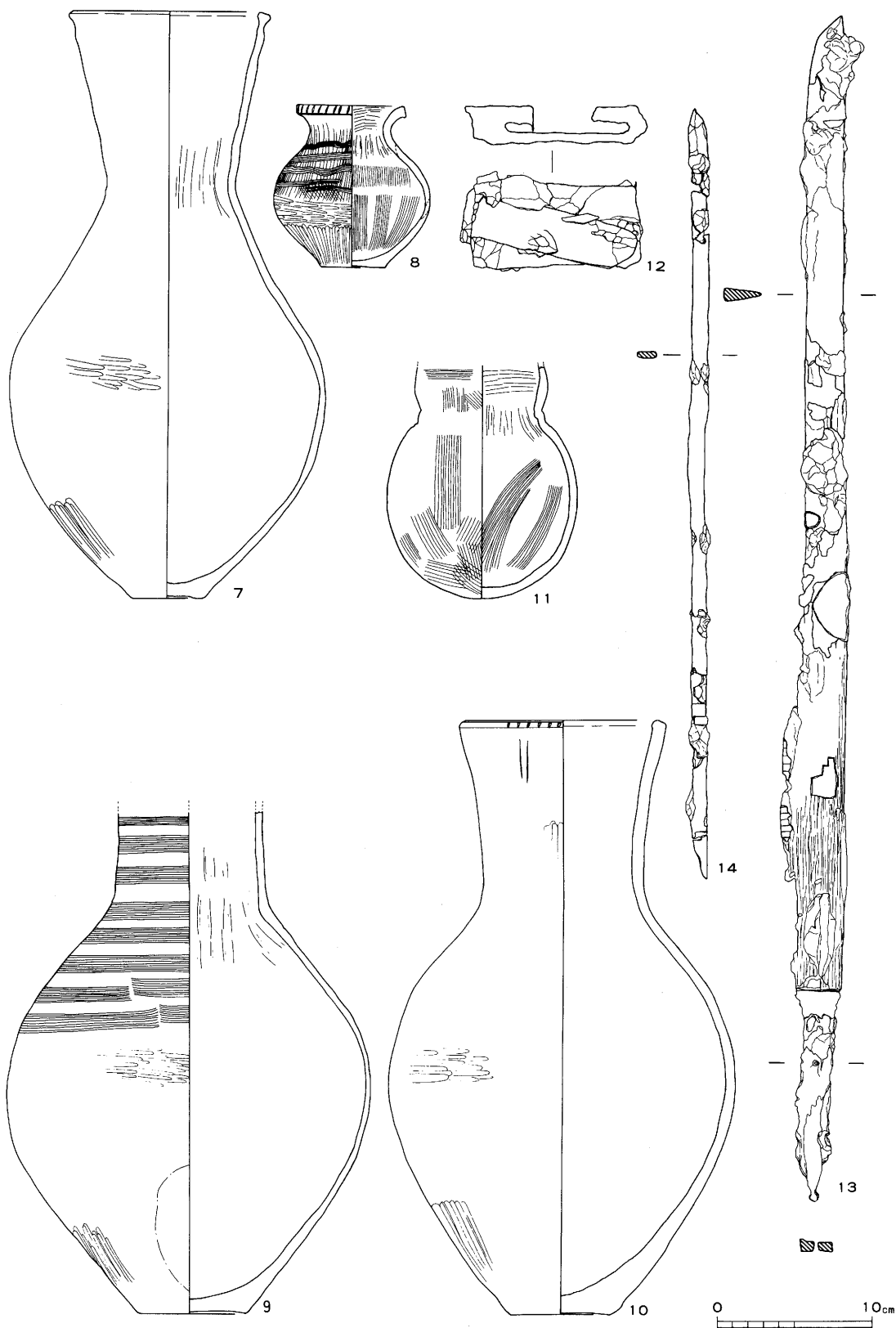
H:8.00m



H:8.00m





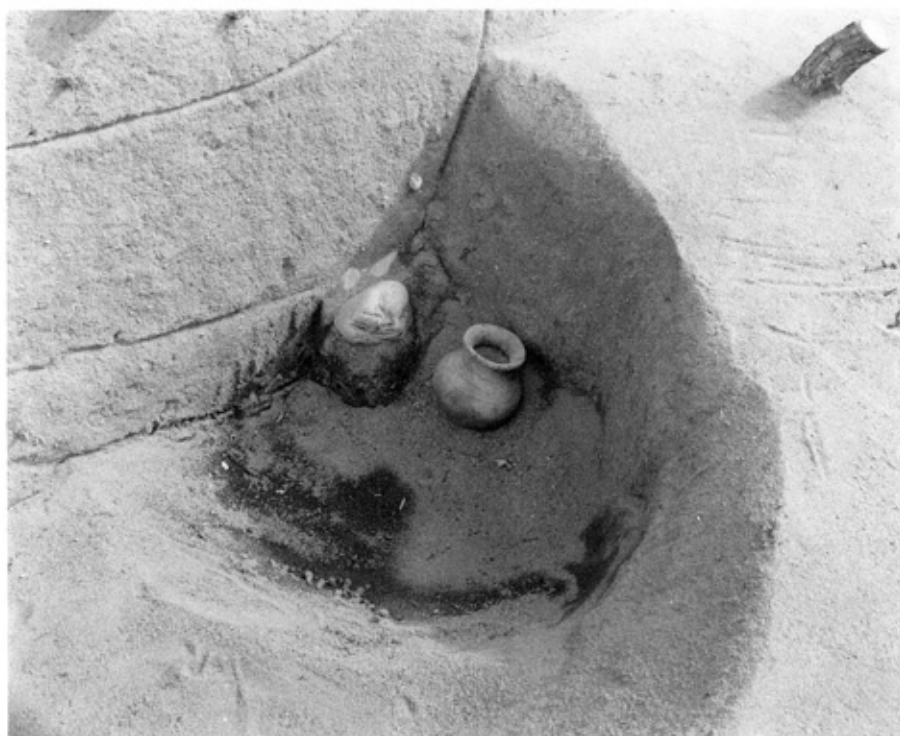




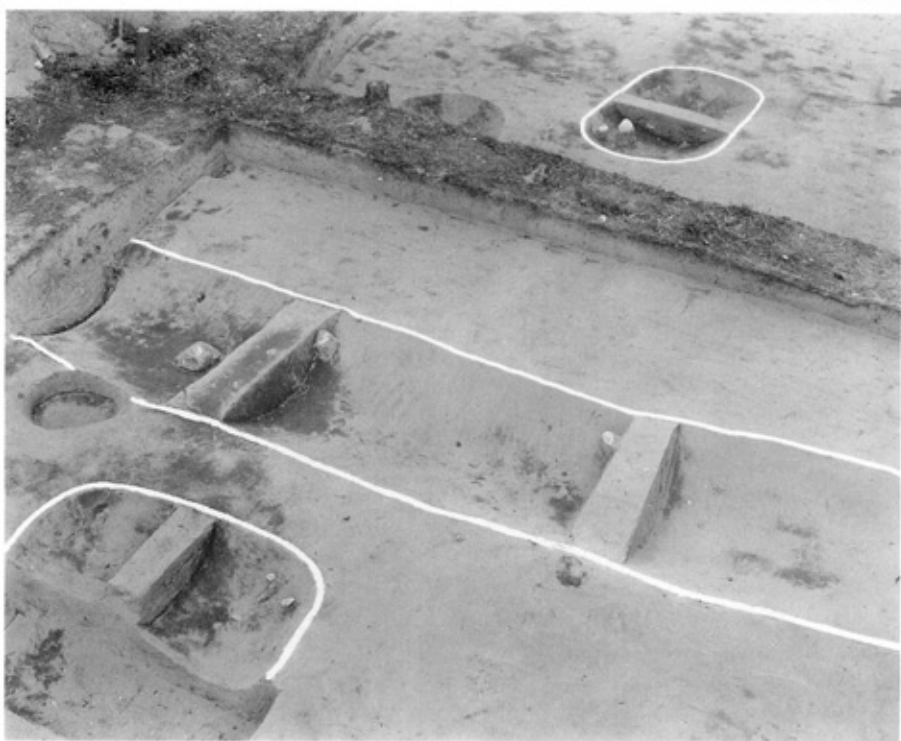
上 第1区 東より 下 第3区 北より



上 第3区 南より 下 第3区SK-5遺物出土状況 南西より



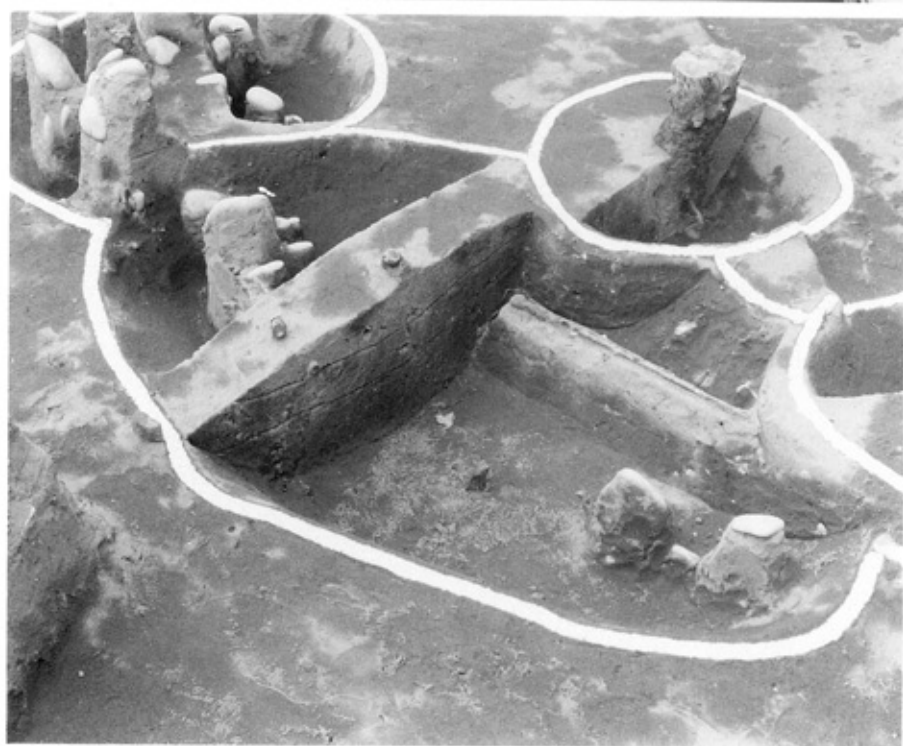
上 第3区SK-13遺物出土状況 北西より 下 第4区 北西より



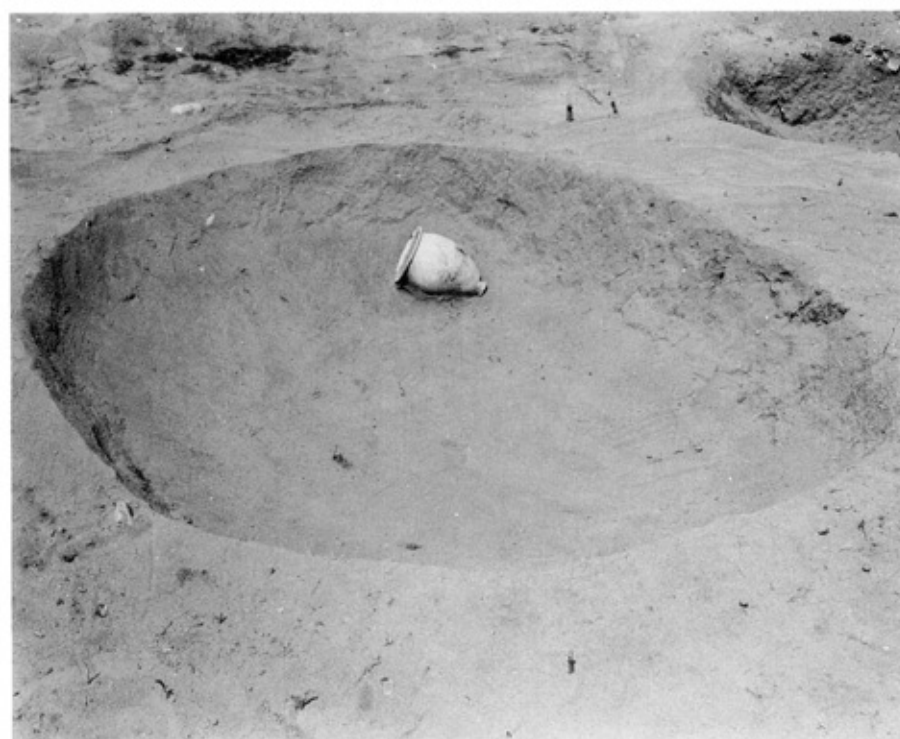
上 第4区 北より 下 第4区SD-2 東より



上 第4区 南東より 下 第4区SK-13遺物出土状況 南より



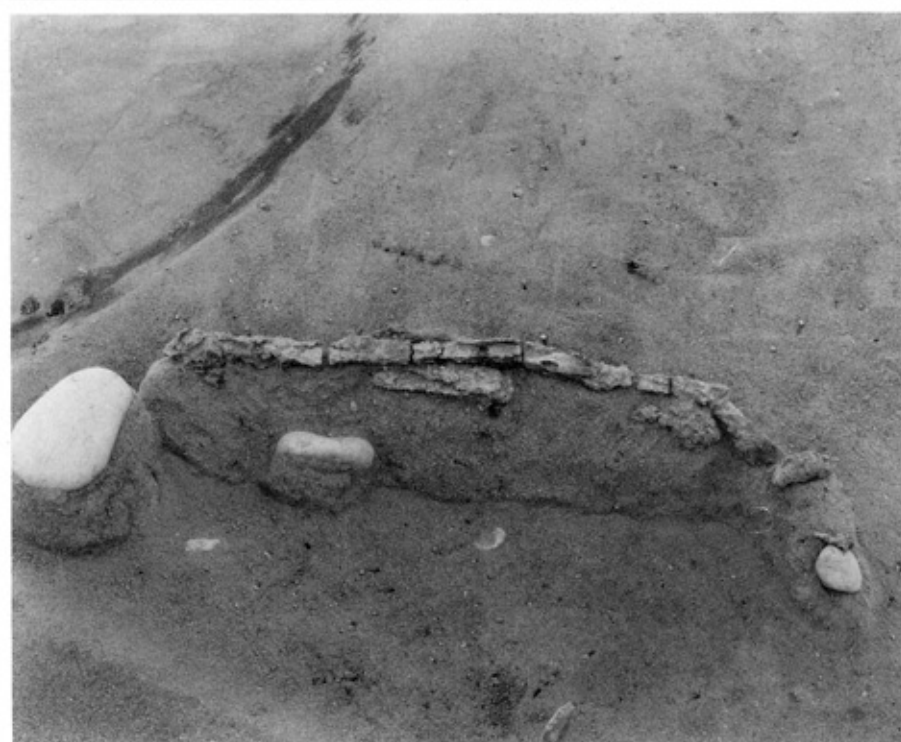
上 第4区 北西より 下 第4区SK-5遺物出土状況 東より



上 第5区 南東より 下 第5区SK-I遺物出土状況 南より



上 第5区SK-1 北西より 下 第6区 南東より



上 第6区SK-2 北東より 下 第6区SK-6遺物出土状況 南西より





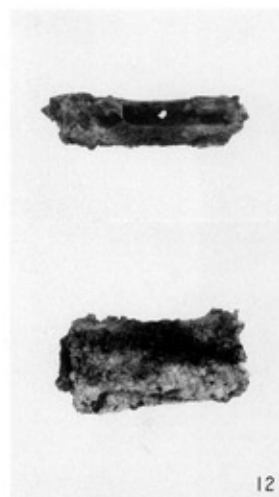
9



8



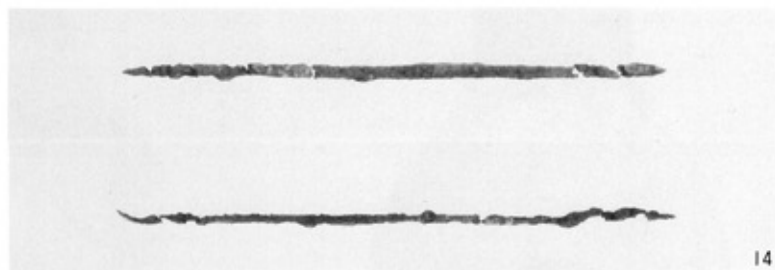
11



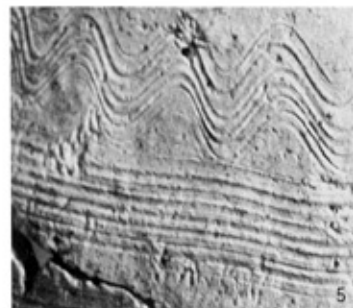
12



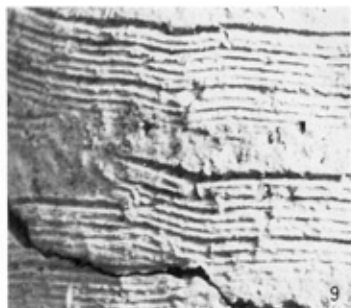
13



14



5



9



15

吉 原 遺 跡

発 行 日 1988年3月30日

編集・発行 財団法人和歌山県文化財センター

印 刷 中和印刷紙器株式会社